

○学部目標（幼小部）
 幼：①分かる経験を重ね、相手に自分の思いを伝えようとする気持ちや意欲を育てる。
 ②聴覚障がい乳幼児を育てる保護者への情報提供を行う。
 小：①基礎・基本となる知識や技能の定着を図る。
 ②自分や友達のよさや違いに気づいて、受け止めようとする態度を育てる。

【教職員による年度末評価】
 幼 ① A 17人 B 4人 C 0人 D 0人 E 0人
 ② A 13人 B 8人 C 0人 D 0人 E 0人
 小 ① A 13人 B 8人 C 0人 D 0人 E 0人
 ② A 15人 B 6人 C 0人 D 0人 E 0人

○手立て（取組の方針）
 幼：・幼児の気持ちに寄り添って、言語化して返したり、視覚的な支援をしたりしてやりとりを積み重ねることで、自分の思いを安心して相手に伝えられるようにする。
 ・保護者同士がつながれるような場の設定や保護者向け通信の発行を行う。
 小：・体験的な活動を取り入れ理解言語を増やし、学習言語を身につけられるようにする。
 ・合同学習や集団活動の中で自己有用感が感じられる環境を設定する。

【目標に向けた成果・課題・方策】
 ・幼稚部、小学部とも体験的な活動を取り入れた学習がなされている。学習意欲も高く、楽しんで学んでいる様子がよく見られた。
 ・やりとりの積み重ねによって幼児が言葉や身ぶり手ぶり、手話、指文字で相手に伝えようとする気持ちが育ってきた。
 ・幼児の実態を踏まえながら、もう少し保護者と進学について話ができるとうよい。
 ・児童の実態に応じて体験的な活動を取り入れていたのはよかったと思うが、学習言語がどこまで身につけられたか？
 ・他学部、他学校との関わりを通じた学習活動は集団で育つ力を身につけられるので良い。
 ・幼児が安心して自分の気持ちを伝えることができるような環境づくりができたと思う。自分から伝える姿が増えてきた。ただ、集団の中で培われる力を少人数でつけていく工夫を引き続き、考えていかなければならない。
 ・丁寧なかかわり、支援がされている。

【今年度の振り返り】
 幼：言語化して返したり視覚的な支援をしたりすることで、幼児からの言葉による発信が増えてきた。ひまわり教室との合同遠足の実施や保護者向け通信の発行等により、保護者への情報提供を行った。
 小：体験的な活動を通じた取り組みは有効だった。幼稚部との合同の活動は児童にとって自信をもって取り組むことのできる活動であった。

【来年度の取組】
 ・幼小：やりとりや体験を大切にしながら、言語化する取り組みを継続する。
 ・幼：引き続き就学に向けた情報提供をしながら、見学会や説明会を計画的に実施していく。
 ・幼：来年度も在籍園との連携を図っていく。親子遠足はひまわり教室の保護者にも声をかける。
 ・小：体験したことをパンフレットや掲示物にまとめる等学習内容を言語化し、視覚的に情報を残し振り返りができる活動を行う。
 ・小：他学部との合同活動等、引き続き集団作りを確保していく。

学校運営協議会委の評価と意見 評価 (A) ※A：よく達成されている B：ほぼ達成されている C：あまり達成されていない D：全く達成されていない E：判断できない

○その子に合った方法で言葉を増やす努力をしている。集団での活動を確保するために、保育所や他の学校と連携を取っている。
 ○児童は、学習意欲も高く、積極的に活動を行っている。学校の教職員による丁寧な関わり・支援がされている。
 ○イベントと等の話し合いに小、中、高校生が同時に参加していて、高校生が下の学年を誘発するように話し合いを円滑に進めていた。時間内に終わらなくても「次は、ここから」と次時の見通しを持たせながら終わられたことにより、次回参加する子どもがそれぞれに意見をもち参加できより話し合いが活性化するように感じた。よい取り組みだと思う。
 ○自分の思いを言語化し表現できるよう導いているように感じた。
 ◎生活言語と学習言語がろう学校の専門性としてそれぞれの学部でしっかり培われるように、また家庭の協同もなされるように今後も頑張してほしい。
 ◎親子遠足などの機会をひまわり教室の親子にもよびかけることは生きた教材活用の体験となるので、保育園とは違った遠足のしおりや体験内容、絵日記などの様子を大事に見せて（魅せて）あげられるとうよい。

○学部目標（中高部）
 中高共通①集団や地域の中での自分の役割を考え、主体的に行動する力を育てる
 中学部 ②自分の課題を意識しながら学習に取り組む姿勢を育て、学力の定着を図る
 高等部 ③卒業後の自己のあり方について主体的に考え、取り組む力を育て、学力の定着を図る

【教職員による年度末評価】
 中高 ① A 10人 B 10人 C 0人 D 0人 E 0人
 ② A 10人 B 10人 C 0人 D 0人 E 1人
 ③ A 13人 B 7人 C 0人 D 0人 E 1人

○手立て（取組の方針）
 中高共通
 ・集団の中で生徒が主体的に行動したり、地域等との様々な交流を行ったりすることで、自己有用感を得られるような学習場面を設定する。
 ・学習内容の定着につながるよう、やりとりや思考した内容を視覚化して示したり、残したりする。
 中学部
 ・取り組むべき課題を明確にし、学習状況に関する情報を共有する場を設ける。
 高等部
 ・進路を選択するための幅広い情報や機会を提供する。

【目標に向けた成果・課題・方策】
 ・生徒会活動のビッグボスなどの役割が1人ずつ与えられていたことは、責任感ももて、自分だけでなくみんなと協力するという意識ももてて、よかった。
 ・児童生徒会での取組がとてもよい。
 ・学力の定着に関しては学部外だとほとんど何も知らないなので、そういうことの情報共有ができたとうよい。
 ・生徒の実態や希望に合った現場実習や見学を計画実施されていたようで、その後の生徒の様子を聞いて着実に自分と向き合おうとしているのを感じた。
 ・一人一人が自分の持っている力を発揮したり、認められたりする場面が多く、生き生きとした表情で学校生活を送っていた。
 ・地域COを活用した取組について校内で情報共有（具体的な実践）してもらえると様子がわかってよい。

【今年度の振り返り】
 ・ここ数年コロナのためにできなかった交流学習や職場見学・体験等を、個々の生徒の実態や進路希望等に応じて、可能な限り実施した。
 ・原則一対一の授業を行うため、中高部全員で活動する機会は多くないが、小中合同自立や行事、児童生徒会活動、部活動等を通して、集団での活動をできるだけ取り入れるようにした。
 ・生徒の活動の様子は、校外へはHPを中心に、校内では掲示を中心にお知らせするようにした。

【来年度の取組】
 ・引き続き、個々の生徒の実態や進路希望等に応じて、校外との交流等を含めた学習機会を設けていく。
 ・引き続き、中高部会の記録等をいつでも見られるようにしているため、中高部以外の先生方にも活用してもらおう。
 ・生徒の活動の様子・情報（個々の生徒の学力の定着度や地域COを活用した取組、交流学習や現場実習・職場見学等）については、情報共有のための新たな資料作り等が伴う場合は難しい。既にある資料や学習体験発表会等の動画を閲覧等、可能なものについては、その機会・体制を設けていきたい。

学校運営協議会委員の評価と意見 評価 (A) ※A：よく達成されている B：ほぼ達成されている C：あまり達成されていない D：全く達成されていない E：判断できない

○一人一人が責任感をもって取り組める機会を作ったのは良い。
 ○自己有用感を高める取り組みは大切だと思う。その分、現実に生きる行動、将来につながる言動など本物を称賛したい。
 ○人数が限られた中で、目標に向けた活動を工夫され実施している。生徒も主体性を持った活動を行っている。
 ◎進路を選択するための情報、機会をさらに幅広く提供されること期待する。
 ◎HPブログ発信を使って、生徒の活動で生き生きと取り組んでいる様子が伝わってくる。惜しいのは学部紹介が工事中であり、グランドデザインの内容から振り分ける等して校外の保護者や生徒の理解や関心をよべるように一工夫してほしい。